



三年間の思い出を胸に
町内中学校卒業式

3月11日、町内中学校において、卒業証書授与式が行われ、竜北中学校52人、氷川中学校43人が思い出残る学び舎を巣立つて行きました。

竜北中学校では、保護者や在校生が見守る中、卒業生一人一人に赤星校長から、卒業証書が手渡されました。

卒業生は、最後に皆で合唱を行い、3年間の思い出を振り返り涙する人もいました。

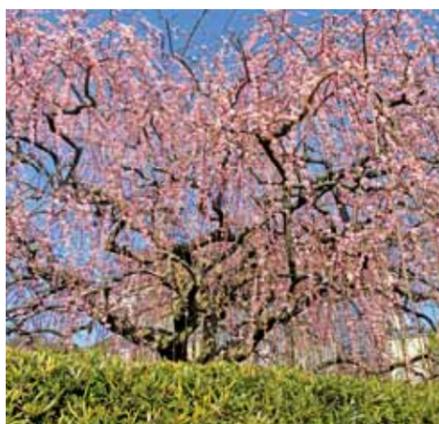


▲卒業証書授与

早春を彩る
吉村良春さん宅枝垂れ梅

2月下旬、早尾北地区の吉村さん宅の庭にある枝垂れ梅が満開を迎えました。

樹齢40年となる吉村さんの枝垂れ梅は、町外からも見に来る人も多く、写真家たちの撮影スポットとなっているそうです。取材当日は「春一番が吹いたので花が飛んでしまった」と話されていましたが、それでもきれいな花がたくさん咲いており、時折吹く風が花弁を舞い上げ、華やかな雰囲気を感じていました。



本から学ぶ
第43回本まつり

2月25日宮原福祉センターさくらと八火図書館において、第43回本まつりが開催されました。本まつりは「読書によって立派な大人になろう」との願いから行われており、町内小中学校の子どもとその保護者が参加しました。

福祉センターでは、募集した感想文、感想画の表彰式が行われ、代表者2人が作品の発表をしました。八火図書館では、本の読み聞かせが行われ、参加した子どもたちは本の世界に吸い込まれるように集中して聞いていました。



▲読み聞かせに集中して聞き入っています

人権の大切さを考える
氷川町公民館大会・人権啓発集会

3月5日、氷川町公民館において平成28年度氷川町公民館大会・人権啓発集会が行われ111人の参加がありました。

生涯学習活動報告、人権作品の表彰が行われたほか、今年度は人権に関する講演会として、元合志市職員のお二人で結成された「さしより生バンド」による出前人権歌声喫茶が行われました。童謡やフォークソングなど懐かしい歌と、メンバーの村上陽一さんの体験談があり、人権について考える貴重な機会となりました。



▲歌の歌詞やエピソードから人権を考えました

元気いっぱいひかわっ子
第12回氷川町子ども会大会

2月26日氷川町公民館において、第12回氷川町子ども会大会が開催されました。

開会行事では、平成28年度中に他の模範となる活動をした西上宮・宮園、東上宮、上鹿島子ども会が表彰されました。

今年はステージイベントなど他に、岩手県の子ども会から熊本地震の支援にと送られたもち米を材料に、足踏み餅つき機体験を行いました。

自分たちでついたお餅を子どもたちはおいしそうに食べていました。



▲ついたお餅をみんなで丸めました

農業生産協業を目指して
農事組合法人アグリ鹿島が誕生

2月27日、鹿島公民館において、氷川町で3番目となる農事組合法人「アグリ鹿島」が設立されました。

アグリ鹿島は、中村辰弘さん（島地）を代表理事として、鹿島・柳の江・島地地区の農業者23人の組合員で構成されており、平成27年から農事組合法人の設立に向けて取り組んでこられました。

今後は、農作業の共同化や受託、農地の借り受けなどを進めながら、水田農業の維持・発展を目指されます。



▲農事組合法人アグリ鹿島のメンバー

国外に特産物をPR
くまもと県南フードバレーフェア

2月18・19日、台湾基隆市において、くまもと県南フードバレーフェアが開催され氷川町のほか県南地域の自治体などが参加しました。

このイベントは、県南地域の物産や観光を基隆市に紹介することで、農産品などの輸出を促進することを目的に行われました。

オープニングセレモニーは、参加自治体と基隆市との記念品交換と鏡開きから始まりました。くまモンステージや熊本県立大学生による晩白柚紹介なども行われ、会場は多くの来場者で賑わっていました。

特産品コーナーでは、い草製品やお茶などが販売され、来場者は安全・安心・高品質の日本製品を好んで購入されていました。

氷川町からは、晩白柚のプリン、ゼリー、キャラメルを試食販売したところ「ハオツ（美味しい）」と高評価で完売するほどの人気でした。



▲氷川町の晩白柚製品も大人気



▲沢山の来場者で賑わう会場



▲藤本町長の掛声で鏡開き